

## 第17回持続可能性ディスカッショングループ

日時：令和元年12月13日（金）16時31分～18時08分

場所：晴海トリトンスクエアY棟2階Y2A-1、2会議室

出席者：小宮山委員長、崎田座長、枝廣委員、相馬委員（小西委員代理）、杉山委員、丸田委員、諸戸委員、永島委員、関口委員、吉迫委員（若林委員代理）

○荒田持続可能性部長 皆様、本日はお忙しいところ、また年末のお忙しいところお越しいただきまして誠にありがとうございます。

定刻になりましたので第17回持続可能性ディスカッショングループを開催いたしたいと思っております。

はじめに、副事務総長の山本より御挨拶申し上げます。

○山本副事務総長 山本でございます。

本日はお忙しい中、ディスカッショングループにお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

大会の開会式まであと230日を切ったところでございます。先週、IOCの理事会がございまして、また昨日までIPCのほうでプロジェクトレビューが行われていたところでございます。準備が今、着々と進められているというところでございますが、IOCとの関係で申しますと、承知のとおり11月1日に私ども4者協議というのを行いまして、マラソンと競歩につきまして、札幌に移転をするということが決まったところでございます。そして、先週のIOC理事会が開催されましてマラソンと競歩のスタート地点、これを札幌市の大通公園とすること。それから、協議日程などが承認をされたところでございます。

大会が迫る中で大変大きな変更でございましたけれども、こうしたことを含めまして、引き続き、大会の準備に万全を期していきたいと思っております。

そして、これらの大会の準備の過程におきまして、引き続き持続可能性をしっかりと統合して進めていきたいと考えております。

先日はISO20121の認証を取得することができました。さきのIOC理事会におきましても、この御報告をしたところ、バッハ会長からはオリンピックの組織委員会という大変複雑な組織において、こういう認証を受けたことは大変素晴らしいことだという祝意を表してい

ただいたところでございます。これも委員の皆様に、これまで御助言いただいた成果でございまして改めて感謝申し上げる次第でございます。

一方で、今後、このマネジメントシステムをしっかりと運用、活用していくこと、これが重要でございまして、引き続き、持続可能な社会の実現に向けまして、さらに取組をしっかりと進めていきたいと思っております。

本日、御議論いただきます持続可能性の大会前報告書につきましては、これまでの準備の最終段階を報告するものでございます。大会への注目が高まる中で、持続可能な大会に向けた取組を国内外に広く知っていただく重要な手段であると考えているところでございます。この報告書を活用いたしまして、東京大会のメッセージをより明確に発信をしていきたいと思っております。

本日は委員の皆様の忌憚のない御意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

○荒田持続可能性部長 ありがとうございます。

なお、山本副総長は業務の都合によりこちらで退席させていただきます。

本ディスカッショングループは、メディアの皆様にも公開させていただいております。カメラ、スチールの皆様は冒頭撮影までとなっておりますので御了承ください。ペン記者の方はいつものとおり、最後まで会議傍聴可能とさせていただいております。

本日は崎田座長をはじめ、各委員の皆様に加え、小宮山委員長並びに国及び東京都から御出席いただいております。

なお、今回から日本労働組合総連合会の石田輝正局長から、丸田満委員に変更になっております。また関係行政機関委員につきましては、今回から内閣官房の勝野美江統括官から諸戸修二委員に、東京都オリンピック・パラリンピック準備局の三浦幹雄部長から関口尚志委員に変更になってございます。

それでは、プレスの皆様、冒頭撮影はこちらまでとなりますので、よろしくお願いいたします。

では、以降の議事進行につきまして崎田座長をお願いいたします。

○崎田座長 ありがとうございます。

皆様もお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

先ほど御挨拶があった中で、マラソンの会場の変更という大きなこともありました。考えてみると、この委員会の中でも多くの委員の皆さんから東京の中でいかに快適に選手の

皆さんが走っていただけるのか、いろいろ競技をしていただけるのか、かなり配慮に関して御意見もありました。それだけ大事なポイントだったということで、まだまだ持続可能性に関して考えていけることはあるんじゃないかという感じがいたしました。

今日意見交換するのは、どういうふうに取り組むのかという、大会を実施する内容をかなり具体化するための報告書ですので、この段階でしっかりと皆さんに御意見をいただいでですね、社会に発信していければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは進めてまいりますけれども、今日の進行に関して事務局から説明をしていただければありがたいと思います。どうぞよろしく願いします。

○荒田持続可能性部長 よろしく願いいたします。

本日も持続可能性配慮の一環としてペーパーレスで会議を進行させていただきます。スクリーン、床のほうに置いてありますものと壁のスクリーン、こちらに投影しております。第17回持続可能性ディスカッショングループ議事次第を御覧ください。

本日はまず、1の主な取組の進捗状況について説明いたします。その後、2の持続可能性大会前報告書（案）の概要について御説明いたします。それぞれの項目の説明の後に委員の皆様にご議論いただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

○崎田座長 ありがとうございます。

すみません。この資料の2を見せていただけますでしょうか。

今の御説明のように、今日の議論は資料の3と資料の4のこのところを中心にと考えておりますけれども、前回どういう話し合いがあったかという資料を提示していただいでいるわけです。

これをちょっと見ていただき、前回のことを振り返りということで思い出していただければと思いますが、私が割に印象的に思っているのを三つほど上げさせていただくと、まず上から3ぽつ目です。SDGsとの関連性を示すとともにSDGsの本質、理念を理解し、全体的なサステナビリティを目指す姿が表せるとよいと、これはずっと、SDGsに貢献するということを言ってきましたので、そこが明確になればいいということで御意見いただきました。また、少し下のほうで、食品ロスや海洋プラスチックの問題、世界の本気度がどんどん高まっていると。こういう中で、準備ができているか常に考えながら進めてほしいという意見がありました。

これに関しては、いろいろ後ほどお話もあると思います。かなりいろいろ取り組んでいただいでいますが、こういうことに関してもまた皆さんの中でお考えがあればお聞かせい

ただければと思います。

あとは、一番下のところなんですけれども、社会の持続可能性を高めることがある意味で、最大のレガシーではないか。オリンピックの先にどういう未来を目指すのか何を達成しようとしているのかというメッセージがあるとよいと。これはずっとここまで皆さんと話し合いながらやってきた中心のところですので、こういうことを常に思いながら私たちも発言をさせていただき続けていければなと思っています。

前回この委員会で、小宮山先生がもうすぐ大阪で、英語で持続可能性のスピーチをする予定ですっておっしゃったのがすごく印象に残っているんですが。

○小宮山委員長 京都です。

○崎田座長 失礼いたしました。京都だったんですね。

私、実はその後、その会議に参加された方から、京都での小宮山先生のスピーチ、特に東京2020大会の持続可能性の話が、かなり観客の方から、外国の専門家の方も多かったということですが、受けていましたという話を伺いました。小宮山先生一言、そこで強調されたこととかお話しただければ。

○小宮山委員長 これは報告書とも関係するのですけれども、私はオリパラ2020は持続社会、英語ではサステナブルソサエティと言いましたけれど、持続社会のショーウインドーだと打ち出しました。

それで、そのショーウインドーに何が飾ってあるのかということ、都市鉱山のメダルプロジェクトですとか、スクラップ鉄77%の使用ですとか、それから再生可能エネルギーとか、ゼロカーボンとか廃プラの表彰台プロジェクトです。それから、これは中ではまだ決まっていない話なんですけれども、東京の美しい空ばかりじゃなくて、川にはアユが戻り、海も東京湾の魚がお寿司の種として使えるところまで回復してきているのだとか、LGBTやハンディキャップも含めたイベントもございます。それから隈研吾さんの設計した新国立競技場、あれはまさに最先端技術とネイチャー等を融合していく日本文化の集大成なのだということですとか、事例を挙げて、これが21世紀のサステナブルソサエティの姿のショーウインドー、全部じゃないけれども一部だということを行いました。

今おっしゃっていただいたのだけれども、ことあるごとに私は、そういう持続社会のショーウインドーなのだ、持続社会のショーウインドーなのだということをあちこちで言い続けております。メディアの方々も、そういうことをやっていたのかと非常に言ってくさっている。私が前回の委員会で、皆さんもおっしゃったと思うのですけれども、やった

ことが書いてあるというだけではなく、そういう立場で今の報告書を見ると、いかにも役人の文章です。言ったことがどこかに全部書いてあります。でも、そのことは人に全く訴えません。

だから、この報告書はバックグラウンドのデータとして大変重要なものだけれども、それをどうやって広報するかということとは全く別物で、ここのところをよく考える必要があります。これからはどうやって広報をするかが課題だというのは前回の委員会の結論です。それをまじめにやりましょうというのが私の提案です。

○崎田座長 ありがとうございます。

持続可能な社会のショーウィンドーとして、しっかりと発信をしながら先進的な具体例を取組みつつ、やっぱりベースのところをいかにしっかりとやるかという事が重要です。そのところが今回のこの報告書に出てくるはずで、やっぱりこういうものの役割というのは非常に大事だと思います。そういう発信力と現実にとしっかりとやること、こういう両面のバランスを取りながら組織委員会にもしっかりと準備をしていただければありがたいし、関わらせていただいたものとしても、これからしっかりといろんなところで皆さんと発信をしていければなと思います。今日もマスコミの方も大勢聞いてくださっているかと思えます。できていること、できないこと両方あるかと思えますけれども、そういうのを丸ごと受け止めていただければありがたいと思います。

今、それを申し上げたのは、次の3ページを出していただければと思うんですが、ここに、前回のときにやはり、できたことだけでなく、できなかったことを教訓として将来に伝えることも重要という御意見も出てきました。

そういう意味で、この会議としてはしっかりと細かいところまできちんと意見交換していただきつつ、しっかりと発信力を強くやっていくという、このバランスの中で進めていければなと思います。先生ありがとうございます。

では、進めていきたいと思えます。事務局の皆様ありがとうございます。

まず資料3の主な取組の進捗状況についてということ事務局から御説明いただいてから皆さんに、御意見などをいただければと思えます。よろしくお願ひします。

○大谷持続可能性企画課長 それでは資料3の主な取組の進捗状況について事務局から御説明させていただきます。

こちらの進捗につきましては、前回の9月のディスカッショングループ以降に、私どものほうで取り組んできた事項の主な進捗を3点、御説明するものでございます。

まず一点目が、先ほど副事務総長からも御説明をさせていただきました、ISO20121の認証の取得でございます。こちらにつきましては、11月22日に第三者認証を取得した旨の認証授与式を行ったものでございます。こちらは、大会の準備段階から持続可能性の取組を着実なものとするために導入を進めてきたというものでございます。

今後、この認証をしっかりと活用して大会の本番に向けて、きちんと改善に取り組んでいくということが重要だと考えておりますし、また我々の取組が今後のイベントにもつながるように取り組んでいきたいと思っております。

続きまして、2点目が暑さ対策の検討状況でございます。

今年の夏にさまざまなテストイベントを開催いたしまして、この中で暑さ対策について試行を行ってきたところでございます。一定の効果が得られた一方でクリアすべき課題も明確になったということでございます。

ここで書かせていただきますように、やはり日差しを遮るための対策ですとか、それから飲料どういうふう提供していくのか。また競技スケジュールの検討も必要であるといったことがございます。

例えばテントの増設であるとか、要は給水の設備の増設、また会場への水分の持ち込みですとか、こういったところを引き続き、本番に向けて準備を進めていきたいと考えてございます。

続いて、3点目でございます。Diversity&Inclusionの取組でございます。こちらにつきましては、非営利の団体の中でこのPRIDE指標という、セクシャルマイノリティへの取組を評価する枠組みがございます。

昨年度は組織委員会も応募いたしまして、シルバーという上から2番目の評価をいただき、我々の持続可能性の調達コードがベストプラクティスを受賞してございました。

今年につきましては、改めて取組を進めた結果、最高ランクであるゴールドを受賞させていただきました。具体的には、ここに書かせていただいておりますように五つの評価項目がございます。この中で、当事者コミュニティという2番目について、これまでも御報告させていただきました、D&I宣言ですね、これは組織としてダイバーシティ&インクルージョンに取り組んでいくという、職員が全体で賛同して行動しやすい環境をつくっていくということを行いまして、全て条件を満たしたということでございます。まだ、これで十分というわけではございませんので、引き続き、私どもの啓発活動をさらに充実させていきながら2020年を迎えたいと思っております。

取組については以上でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。最近の取組ということで御報告いただきました。

この部分で御質問とか御意見があればお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。よろしいですか。

では、私から1点なのですが、この最初のISO20121の認証の取得、これも大変大事なところだと思っています。やはり、これだけの大きなイベントを実施するときに持続可能性をきちんと考えてやっていますといってもですね、それを組織全体に行き渡らせるというのが大変重要だと思いますし、それを社会に発信するというのも大変ですので、やはりこういうISOの、これは2012年のロンドン大会のときの仕組みがきっかけでISO化されたと理解をしていますけれども、これを今回、認証を受けて取り組むということは、これからの日本の大規模イベントにとっても大きな影響があるかなと考えています。

そういう意味で今後、組織委員会のメンバーの皆さん、まだまだ急拡大中で、大勢、人数も増えてくる時期だと思いますので、きっと研修とかも随分かなりしっかりと実施されると思いますので、そういう機会も活用しながら組織委員会の皆さんのお一人お一人の気持ちの中にしっかりとこの持続可能性の大事なところを伝えていただいて、それぞれのお仕事の中できちんと価値を判断していただけるように心から期待していますのでよろしくお願ひします。

今、このISO20121に関して研修とかそういうのはかなりスタートしているんですかね。様子をちょっと教えていただければ。

○荒田持続可能性部長 ISOの認証を今回、取得しましたけれども、マネジメントシステムは、そもそも導入して以降ということで、もう数年前から取り組んでところです。座長もおっしゃるとおり、本当に一人一人が認識していることが大事ということでございますので、研修は元より各部署において、持続可能性の担当者、それから管理職の責任者も置いてですね、しっかりコミュニケーションができるように、またこちらから発信するとともに、それぞれの部署における取組も私たちでしっかり把握し、立てた計画がしっかり実行されていくようにPDCAのサイクルが回るように、ただいま鋭意、運用しているところでございます。

○崎田座長 ありがとうございます。

○手島総務局長 ボランティアの研修ですとか、これからコントラクター、いろいろな委託事業者も含めてですね、彼らにもISOもしくは、サステナビリティの関係の研修を徹底

してですね、持続可能性がある大会になるように研修をする予定でございますので、それ  
もつけ加えさせていただきます。

○崎田座長 ありがとうございます。

いろいろこういう流れを活用しながら徹底していただくということで、ありがとうございます。  
います。

これ、御担当、星野さんですか。星野さん、何かこれは特に何か一言ありますか。やっ  
と認証が取れたというお気持ちもあるかと思いますが、そういうのはありますか。

○星野持続可能性推進課長 皆様に協力いただきまして、本当にやっとなんて認証が取れたとい  
うことでございますので、引き続き活用していければと思います。

○崎田座長 ありがとうございます。

ほかの皆さんからいいですか。ほかのテーマのところは。ありがとうございます。

それでは、今日の中心テーマのところに移っていきたいと思います。

それでは資料の4ですね、こちらのほうの説明をよろしくお願いします。

○大谷持続可能性企画課長 それでは資料4、持続可能性大会報告書について御説明をさ  
せていただきます。

本日の時間が限られていることから報告書に関する要点の部分の中心に御説明をさせて  
いただきたいと思います。

最初のページが、我々の大会のフェーズと持続可能性の報告の体系を示したものでござ  
いまして、この赤枠で囲んであります、直近の大会直前の準備状況について御説明をする  
というものでございます。

次のスライドでございます。私どもが出す3回の報告書の中で、今回は2番目ございま  
す。今回がその主要なものであり、我々の取り組んできた成果の見込みをしっかりと把握し、  
公表するものでございます。

具体的には3ページに特徴を書いてございます。一つは3回の報告の中で中心となる報告  
書ということでございます。関心の高い時期に公表されるということで、我々の大会の機  
運醸成にとって重要な手段であるということと、それから記録の意味でも非常に重要にな  
ってくるものでございます。もう一つが概要版の作成をさせていただくという点ございま  
す。こちらをしっかりと作成をすることで、主要な我々の取組をわかりやすく御紹介を  
して、発信をしていきたいと考えております。こちらについても後ほど御説明をさせてい



たきます。

続いて、4ページ目がスケジュールでございます。こちら前回も御提示させていただいております。予定といたしましては、3月末に大会前報告書を公表させていただく予定でございます。その後、2020年の12月には大会後の報告を最後に予定しているという全体のスケジュールでございます。

今回の報告書につきましては、年度末に開催予定でございます、街づくり・持続可能性委員会での御報告や理事会での審議を経まして公表させていただくという予定でございます。

続いて、5ページ目でございます。こちらが報告書を全体の構成案でございます。全体として、前回の進捗状況報告書のテーマを活用したものでございまして、そこからかなりの取組が具体化されてまいりました。

その中で、具体的な取組事例を数多く御紹介をしているというのが特徴でございます。また、先ほどお話のありました各取組の課題についても、しっかり取り上げる予定でございます。また左側の持続可能性の主要テーマの中で、このSDGsとの関連性、こちらについてもしっかりと記述をしていきたいと思っております。

続いて、6ページ目でございます。冒頭、申し上げました概要版について御説明をさせていただきます。こちらにつきましては、先ほど小宮山委員長からも御説明がありましたとおり、その報告書自体は記録としても重要な一方で、情報発信の面でこういった概要版をつくる重要性というのは、非常に大きいと考えております。

そのため、最大で200ページから300ページほどの報告書になりますので、今回の概要版につきましては30ページほどに抑えまして、理解のしやすさを重点において編集をしてきたいと思っております。また、その中で視覚的にわかりやすく我々の取組の意義ですとか、大会と世界的潮流の全体的な流れをしっかりと御説明をしていきたいと思っております。また、我々の数多くの取組の中で、ハイライトすべき取組やキーメッセージをしっかりと打ち出していきたいと思っております。

この中でも、ページが限られるのですが各主要テーマの中の意義やレガシー、また課題などについても取り上げていきたいと思っております。

これから、報告書の全体の概要について御説明をさせていただきます。

7ページ目が前半部分の目次のみ掲載をさせていただいているところでございまして、3.1のところでは我々の組織体制の変化、特に会場を軸とした体制の移行について今回、記

述をさせていただいているところが特徴でございます。

続いて、8ページ目でございます。こちらが冒頭も申し上げましたマネジメントシステムの運用状況でございます。認証取得したというところと、引き続き取り組む旨は先ほど御説明したとおりですけれども、今お話差し上げましたとおり、これから新しい職員も入ってきますので、教育や研修をしっかりと取り組んでいくということも強化をしていきたいと思っております。また、皆様との議論を通じて取組を発展させていきたいと思っております。

続いて、4.1の気候変動。こちらからの各主要テーマの取組に入っております。

9ページ目は、これまでの私どもの考え方を整理したものでございまして、CO<sub>2</sub>の把握、そして実際に、それをどのように減らしていくか。最後に排出されてしまうCO<sub>2</sub>については相殺をするという流れを示した図でございます。

続いて、10ページ目でございます。今回発行いたします報告書につきましては、大会のカーボンフットプリントを改めて計算をしてきたいと思っております。このときにBaUという、対策を施さなかった場合の数値と、私どもが対策を実施した後の数値というものをしっかりと計算をし直した上で御提示をしていきたいと思っております。

前回、運営計画の第2版を発行したときよりも、さまざまな状況が変わってきておりますので、こういったところも詳細に把握した上で公表をしていきたいと思っております。

11ページ目でございます。再生可能エネルギーの利用につきましては、委員の皆様から御議論いただいた、再生可能エネルギーの電気の定義に従いまして、調達を進めているところでございます。また、こういったメニューの中で、被災地で発電された電気の調達も現在、検討しているところでございます。また、大会後におきましては、私どもが使った電気の量やいわゆるグリーン電力証書等の活用量も含めて、実績をきちんと把握し公表していきたいと思っております。

12ページ目が輸送に関してでございます。こちらにつきましては前回も御報告いたしましたが、燃料電池車に関しましては約500台の導入を予定しております。また、電気自動車につきましても、こういった写真にありますように、さまざまな形態の電気自動車を導入することで低燃費化を進めているという状況でございます。

続いて、13ページ目でございます。カーボンオフセットにつきましては、東京都・埼玉県の御協力をいただいて進めているところでございまして、現在の時点での実績をここに掲載させていただいておりますけれども、報告書発行時点では最新の情報で掲載をさせて

いただく予定でございます。また、大会のカーボンオフセットとは別に市民の方々のCO<sub>2</sub>削減の活動を応援するという取組も進めてございます。

こちら活動としては、まだ7県という状況でございます。委員の皆様からも働きかけをしていただいております、問い合わせもいただいているところでございます。こういった市民の方への活動の広がりについても引き続き、実施をしていきたいと思っております。

14ページ目以降が資源管理についてでございます。こちらにつきましては、冒頭、崎田座長からございました世界的な課題としては、プラスチックが大きなところでございます。こちらにつきましては、大会時の使い捨てプラスチックに対する取組を、現在進めているところでございます。こちらは東京都とも連携をさせていただいて、使用量の削減に向けて事業者との調整も含め進めているというところでございます。また市民参加型の取組といたしまして、市民の皆様から容器を御提供いただき、表彰台をつくるという取組でございます。こちらについても大学生との連携等も進めておまして、皆さんによりよく知ってもらうための取組も合わせて進めているところでございます。

15ページ目が会場から出る廃棄物のリサイクルについてでございます。こちらにつきましては、右側の図にありますように分別の区分を定めてきているところでございます。

現在、このような分別の区分に則って適切な分別ができるような体制を今、検討しているところでございます。現在、廃棄物の処理契約の手続も進めているところでございまして、引き続き大会に向けて実務を詰めていくというところでございます。

続いて、16ページ目でございます。こちらは我々が準備段階から含めて調達する物品についてのリユース、リサイクル、こちらは99%の目標を掲げているところでございます。こちらにつきましては、リユース、リサイクルの仕組みづくりを進めてきまして、財産の処分手続を適切に運用していく段階でございます。また、早期に処分先を決定していくということも含めて、我々組織委員会内での認識浸透も今、図っているところでございます。実際に、共同実施事業という東京都の負担で進めている物品等につきましては、早期にリユースが進められるように今、協力をして実施に向けた調査を行っているものでございます。

続きまして、3点目の取組が大気・水・緑・生物多様性等でございます。こちら、暑さ対策につきましては先ほど冒頭に御説明したとおりでございます、引き続き今年のテストイベントの試行に基づいて取組を進めていく予定でございます。

18ページ目が水質についてでございます。こちらもお台場海浜公園での水質についてが非常に重要な点になってきてございます。こちらにつきましても、今年度スクリーンの設置や水質・水温に関する調査を実施して、現状を把握しているところでございます。本番に向けては三重スクリーンということで、これは昨年取り組んだ実験でございますけれども、その取組に基づいて万全な対策で取り組んでいくというところでございます。

19ページ目は、まちの中での緑ということで、行政の中での取組を御紹介させていただいております。競技場周辺での緑の確保や、こういった写真にありますような緑の景観づくり、また東京湾での湿地と緑の確保といった点について、それぞれ進めていただいているというところでございます。

また、20ページ目が人権・労働、公正な事業慣行等でございます。こちらにつきましても、ビジネスと人権に関する指導原則に沿った取組を進めているというところで、具体策を記載させていただいております。

事例としましては、ここに20ページ目の下にありますように、東京都の人権の条例についても事例として御紹介をさせていただきたいと思っておりますし、またスポンサー企業さんの中で積極的に取り組まれている例についても発信をしていきたいと思っております。

21ページ目がダイバーシティ&インクルージョンでございます。こちらもお先ほどお話をさせていただきましたD&I宣言をはじめ、内部での教育訓練についてさまざまな取組の実績を御紹介をする予定でございます。

22ページ目でございます。こちらは大会のボランティアの皆さんに関してでございます。こちらについては申し込みの時点や、実際に大会ボランティアとして活躍していただく皆様について、女性の方や日本国籍以外の方にも数多く手を挙げていただいているというところでございます。実際に、こういった方々への教育の中でもアクセシビリティ等のトレーニングを行ってきたいと思っております。

23ページ目がダイバーシティ&インクルージョンの実際の会場等における取組状況でございます。事例といたしまして、トイレや礼拝スペース等の配慮、また医療の面ですとか、大会の準備段階のさまざまな場面において、D&Iの視点を盛り込んでいるところでございます。また、ステークホルダーと連携していきたいと思っておりますけれども、まだまだ発信の実績が不足してございますので、今後も引き続き、どのような取組ができるか検討していきたいと思っております。例として、前回のディスカッショングループでカレンダーなどのライセンスグッズの販売も御紹介させていただきましたが、そういったわかりやす

いツールで皆様に知っていただきたいと考えております。

24ページ目がアクセシビリティでございます。こちらにつきましては、会場の中だけではなく空港や各会場までの移動も含めた、一貫したアクセシビリティの整備ということに関係の皆様と協力して進めております。

こちらにつきましても、これまでの取組状況の事例を紹介しながら具体的な御説明をしてまいりたいと考えております。

人権の取組の最後のページが25ページでございます。こちらにつきましては、特に大会での国内外での移動が活発になる中で、人身取引の防止への取組を御紹介させていただきます。また、先ほどお話をしましたPRIDE指標の中でのゴールドの受賞ですとか、また大会に向けては、人権の相談を受ける窓口ということで、大会開催時に人権に関する問題に適切に対応できる体制をとるべく、ガイドラインに相当するツールにつきまして、有識者の皆様と鋭意議論を進めているところでございます。こうした取組も順次、御紹介をしていきたいと思っております。

五つ目のテーマが参加・協働、情報発信でございます。こちらにつきましては26ページ目がこれまでも御説明してございますけれども、国連との連携をしてSDG s とスポーツとの協力について発信をしているところでございます。また、被災地の方々にも参加をしていただく復興のモニュメントという取組も進めているところでございます。

27ページ目が人材育成という点でございますけれども、先ほども御説明しましたけれども職員やボランティアへの持続可能性の研修に、これから非常に多くの方々に参加をしていくということで、強化をしていきたいと思っておりますし、今後はその大会会場を中心とした体制になってまいりますので、会場の中で持続可能性の配慮をきちんとできる教育をしていきたいと考えております。また、参加型取組のプロジェクトとしては、みんなのメダルプロジェクトの後に環境省さんのほうで、「アフターメダルプロジェクト」という後継の事業も進めていただいているところでございます。また先ほど申し上げた、「みんなの表彰台プロジェクト」をはじめ、さまざまな取組を進めているところでございます。また、教育の分野でも、学校教育での授業の中、あるいは大学と連携した講座での持続可能性の講義など、若い人への教育についても引き続き取り組んでいるところでございます。

29ページ目が情報発信でございます。これまでの国連やスポンサーと連携した取組ですとか、G20サミットへの出展等に加え、これからもさまざまな機会をとらえて取組を発信していきたいと思っております。また、大会期間中の情報発信が今後の課題でございます。

観客の皆様にもわかりやすく伝えていくという工夫を現在、検討しているところでございます。また、大会のオリンピックとパラリンピックの切り替えの時期におきまして、文化プログラムの中で共生社会の実現をテーマとして発信を行ってまいります。

こういったものも含めまして、大会期間中の発信をこれからより具体化していきたいと考えております。

4.6が調達についてでございます。調達コードに沿った具体的な取組をそれぞれ御紹介してございます。

30ページ目が実際、調達コードに沿って取り組んでいただくサプライヤーやライセンシーの方々とのコミュニケーションを継続して行っているところでございまして、調達コードの周知や取組状況の意見交換をさせていただいているところでございます。

また、31ページ目におきましては、これまでの木材の調達の取組について有明体操競技場の例を御紹介するとともに、各調達コードに取り組んでいただく事業者さんの苦勞している面も含めまして、取組について御紹介をさせていただいているところでございます。

32ページ目は、各個別の調達基準に関する取組状況について御説明をしているところでございます。またILOと協力をして、ディーセントワークに関する取組の普及促進を行っております。フォーラムの開催や事例集の作成等を行っておりますので、取組について御紹介をしているところでございます。

33ページ目が通報受付窓口の件でございます。これまで11件の通報を受けているところでございますが、こういった通報窓口については引き続き、広く認知をしていただくことが重要でございます。こういった取組について記述し、これからの取組についても御説明しております。また、調達コードに関連した動きとして、GAPなどの新しい取組についても御紹介をさせていただければと思っております。また、事業者の方々の取組を後押しするためにも、消費者の方々が持続可能な調達に関する認識を高めていただくことが重要と考えておりますので、こういったことについても記述をしているところでございます。

最後に会場整備でございます。会場整備につきましては、特に恒久施設の整備に関してはかなり進んできてございます。これについては、完成した状況をわかりやすくお伝えしていきたいと思っております。

34ページ目が11月に竣工しました、オリンピックスタジアムの取組を御紹介しているものでございます。いわゆる次世代型BEMSをはじめとする、エネルギー技術の内容ですとか、あるいは建設現場でのリサイクルの取組、また木材の活用などの事例について御紹介をし

ているものでございます。

35ページ目が東京都の新規恒久会場の整備状況でございます。こちら写真にございますように、さまざまな施設が竣工をしているところでございまして、こういった取組を実績の数値とともに御紹介をしていきたいと考えております。

また、一方36ページ目が仮設会場でございます。こちらについては現在、組織委員会が整備を進めている段階でございます。レンタルまたはリースを可能な限り活用していく取組ですとか、また工事の負荷が極力かからないような取組を仮設の整備の中で具体的に進めていく、こういったところわかりやすくお伝えしていきたいと思っております。

37ページ目が選手村でございますけれども、こちら大会時の取組だけではなく、レガシーにつながる取組について、このCASBEEの取得をはじめとする取組について御紹介をしております。また、輸送の拠点である輸送デポにつきましても、既存施設の最大限の活用をはじめとした取組について御紹介をしております。また、工事現場での安全衛生につきましても、これまでのさまざまな取組がございますので、報告書でしっかりと記載をしております。

私からは以上でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。

今、この持続可能性に関する取組を実施していただいている真っ最中ということだと思いますけれども、どういう方針でやっているかということをおちゃんとこの報告書で書いていただき、社会に発信するということが大変重要だということで、進めていただいております。

まず、残された時間をこの内容に関して、皆さんにも率直に御意見を、応援であったり、もっとという御意見など、いろいろいただければと思います。全体、どこでも言っは大変ですので、少し最初の御意見は最初から19ページまでの、ですから概要版とか環境分野、この辺のところまで少し先に御意見をいただき、人権・労働から会場整備の後半のところをあとに、できるだけたくさん御意見をいただくような感じで進めていければなと思っておりますがよろしいでしょうか。

それで、どの分野も全体に関わるということの場合は、どんどんどのタイミングでも結構ですので、御発言いただければありがたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは、まず最初から19ページの環境分野のあたりまで、ここで御質問、御意見などお話しいただければありがたいかなと思います。

枝廣さんからいきますか。はい、よろしくお願いします。

○枝廣委員 ありがとうございます。脱炭素ワーキンググループの枝廣です。

11ページのところに再エネがあります。ここにまさに書かれているように、まだ検討中とか、やり方の議論が現在進んでいる部分が結構あります。

3月の報告書のタイミングで盛り込めないものも結構あると私は理解しています。この報告書は非常に重要なので、「進んでいるけど、まだ最終決定ではないので盛り込めない部分」も、後できちんとそれが盛り込めるような形にしていただければと思います。ここに書いてないからやってないと思われぬように、後で追加をするなり、そこの配慮をきちんとしていただきたいというのが1点目です。

もう一つは、13ページの「カーボンオフセットについて」の「（参考）市民によるCO<sub>2</sub>削減・吸収活動の状況」が、残念ながらまだ薄い状態です。これが、例えば件数などが外に出たときに、「とても意識が薄い」とか、「あまり協力してない」と見られるのが、とてももったいないなと思っています。

次に活動申請に関する周知ややりにくさの問題について。最初に「主体登録申請して、認証されてから申請書を送付してください」とか、「最初に登録するのは市民の方は1月まで」とか、結構短い時間の中で、いろいろと手続的なこともあって、広がりがかちょっと弱いのかなと思っています。その辺りどうすれば広がるのか、手続的なところで少し融通が利く面がないのかどうか。

各地、いろんなところで市民の方と話していても、とてもいろいろな活動をされているし、それが「市民によるCO<sub>2</sub>削減・吸収活動」につながるという理解がないのはもったいないと思っています。この数件という形で終わらないように何とかできたらと思います。ぜひ、そこも御検討いただければと思います。

以上です。

○崎田座長 ありがとうございます。

今、大事な点を二つお話しいただきました。脱炭素の部分ですけれども、ここで今回、盛り込めないことでもやっていることに関して、うまくつながって発信できるようにというお話ですね。それはすごく大事なんですが、例えばこういうことを検討中みたいな形でも入れ込めるとか、何かそういうことをうまくやっていったほうがいいと思うんですが、特にどういうところが今、入れ込めないのかとか、それも言えないんですかね。すみません。



特にどういうことが今、入れ込めないのかとか、何かお話があれば教えていただければと思います。これは牧野さんのほうからよろしくお願いします。

○牧野持続可能性計画課ディレクター 再エネの電気のところなんですけれども、再エネの電気につきましては、供給をしていただくように今、ちょうど契約締結へ向かって進んでいるところでございます、今、頑張っているところなんです、中身についてはどこの発電所のものなのかとか、そこまでできれば掲載していきたいと思っていますので、契約等々が全て終わってからでないという報告書に載せることができないという状況でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。

パワーポイントの11ページ目で下に2行書いてありますよね。大会後には、いろいろ再エネの使用量などを把握したりすると同時に再エネ由来ではない部分についてのグリーン電力証書の活用量を把握、公表していくというのが今のお話ですよね。電気そのものも再エネを買うということですね。

○牧野持続可能性計画課ディレクター そうですね。

○崎田座長 わかりました。

○枝廣委員 今の資料でいうと上のところの二つ目のひし形のところですかね。再エネメニューの発電元、被災地発電した電気の調達も検討中というのもそうですし、再エネ電源そのものの発電元は今後公表予定という形では入っていますが、それが重要な報告書の一部であるという位置づけで、きちんと盛り込んでおけばいいなと思っています。

○崎田座長 ありがとうございます。

これ今は、パワーポイントでまとめてお話しいただいています、本文が200ページから300ページということですので、そこにはかなりな情報は入れ込んでいるんだと期待しておりますので、そこでできるだけのことを発信していただければありがたいと思います。

2番目のお話が、13ページで市民の参加型のカーボンオフセットが7件というのがちょっと残念かなという話で、実は私も関わっている環境学習センターでやっている環境の取組を実は3番目に登録をしました。でも、きちんと受け付けていただくためには、今やっている動きを全部、やっている市民や自治体など関係者みんなをその気にさせる動きをしなきゃいけなかったりとかですね、誰かが思いついて書類が書けるといふのとちょっとまた違いますので、大変ではありますが、もう少し広まるようにしていただければなと思います。

何かここについてお話ありますか。

○牧野持続可能性計画課ディレクター 前回のディスカッショングループのときにお話ししたところ、先生方も広めるお手伝いをいただけるということで、小西先生や枝廣先生にもいろんな方にお声がけをしていただいた結果、前回は6個だったのが7になったということでもございますし、今、また問い合わせが来ている状態になっておりますので、今後も広めていきたいと思っています。ちょっと私が枝廣先生間違えてお教えしてしまったんですけども、市民の方も3月までは申し込みますので、まだまだ間に合うので、ぜひお心当たりがある先生はぜひ、お声掛けのお願いをしたいと思います。

○崎田座長 ありがとうございます。ぜひ皆さんよろしくお願ひします。

これで急に倍ぐらいに増えたらうれしいなという感じですがよろしくお願ひします。

それでは、ちょうどうまくページを開けると資源管理ですけれども、杉山委員どうですか。

○杉山委員 ありがとうございます。

まず印象として、前回の会合のときにも御意見が出ていたようですけれども、今、資源管理の分野ですと、プラスチックと、それから食品ロスというのは欠かせないなという気がしておりまして、今回の概要のほう御説明いただいたものを見ておりますと、プラスチックに関してはかなり書き込みもあるのですが、食品ロスの部分、もちろんやっつけらっしゃると思うのですが、今ここに示されているものとしては明示的に出てないものですか。どのぐらいまで書き込んでいただけるのか。それは国内でもそうですけれども、サミットでもここ何年かいろいろこの二つのテーマは議論されてきておりますので、ぜひともいろいろ書き込んでいただきたいなということをご期待しております。

○崎田座長 そうですね。ありがとうございます。

今、プラスチックに関してはかなり御発表もいただきましたけれども、食品ロスは飲食の事業者さんも決まったということですので、その事業者さんにしっかりと取り組んでいただくことと、事業者さんだけではなく、組織委員会もしっかりとしかけていただけることなどあると思いますので、この辺に関して少し情報をいただければと思いますが山下さんですかね。

○山下持続可能性計画課長 食品ロスにつきましては、事業者の選定の段階から、そういったことを我々も大事にとらえているということをお伝えしながら進めてきたところでございます。

具体的な中身につきましては、まだ事業者と話をしているところでございますので、これから大会までの間に、食品ロスでどういった具体的な対策を進めていくのか、そのあたりをこれからしっかりと明らかにしていきたいと思っています。

○崎田座長 ありがとうございます。

この食品ロスの分野でどなたか何かほかにコメントありますか。諸戸さん、何かこの分野で。

○諸戸企画・推進統括官 内閣官房の諸戸でございます。今日からよろしく申し上げます。

食品ロスということで申し上げますと、御案内かと思えますけれども、6月までの通常国会の際にですね、食品ロスの削減の法というのが成立をしております。

それで、国内を対象にしておりますので、さまざまな関係者がいらっしゃるわけですが、国会議員の先生方も大変関心が高くございまして、6月の、国会議員さん方との会合の際にもですね、各省庁もしっかり取り組むようにという発言もいただいておりますので、そういう動きもあるということで今、杉山委員がおっしゃったようにプラスチックと食品ロスというのは非常にホットな話題だと思っていますので、国としてもしっかり取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

○崎田座長 ありがとうございます。

私、食品ロス削減推進法の基本計画づくりの国の委員会に参加させていただいております。今、まだやっている真っ最中で、基本の流れをつくっているところなのですけれども、実は全国で本当に地域の事業者さんや消費者の取組を地域の自治体がつないでしっかり実践していこうという動きなどが非常に大きく盛り上がっているのですけれども、もう一点ですね、大学生や若い世代の方がアプリを開発したり、アプリを開発しているような会社と協力してですね、何か急に余っていて困っているというような、そういうレストランの情報を共有して買いに来てもらうとか、なにか今まで考えていなかったような仕組みがどんどん生まれつつあるのですね。

ですから、何かそういうことでおもしろいことができたらいいですねと実はお話をしたことがあるのですが、なかなか会場と外を簡単につなぐというのが難しいということで、いろいろとイメージは湧くのですが、現実にはできることに繋がりません。でも、やはり多くの方がよくぞやっぱりやってくれたというように、納得するようなことができるというと思いますので、その辺ぜひと思います。よろしく申し上げます。

いいですか。荒田さん、一言何かありますか。

○荒田持続可能性部長 プラスチックと並んで、確かに大事な問題であり、資源管理の中のも一番上の項目にもなっているということで、組織委員会としても重要な問題として感じているところです。

運用面については、またこれから事業者さんと調整しながら鋭意進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

○崎田座長 ありがとうございます。よろしく申し上げます。どうもありがとうございます。

資源管理のところでは、実は、調達物品の99%はリユース・リサイクルとかですね、運営時廃棄物の65%がリユース・リサイクルという目標は、今の現実社会の商習慣とか、そういう運営からいったら非常に高い数字なのですね。

けれども、やはり2カ月とか、そういう限定のイベントですからこのくらいのチャレンジはできるのじゃないかというかなり高い数字で出しています。本当に御苦労されている真っ最中じゃないかなと思うのですが、森さん何かコメントありますかでしょうか。

○森総務局次長 それでは、特に65%の運営時廃棄物の話だけ少しさせていただきますけれど、特に象徴的なのは、ここの15ページに紙容器、紙コップの話だけちょっとだけさせていただきますと、当然全ての競技会場で紙コップ・紙容器を使うのですが、これらについては全量回収して資源化に回そうと。なかなか、実態的には可燃ごみとしての処理がこれまで行われているわけでございますので、それぞれのルートを変えるという手段で、今業者との調整をさせていただいているところでございます。

いずれにしても65%は正直ハードルが高いところでございますので、何とかそれに近づくように努力していきたいと思っております。

以上でございます。

○小宮山委員長 普通は何%なのですか。

○森総務局次長 現実的な数字はないですけども、物事で見なければならぬので、例えば食品残渣は完全に焼却が多いです。リサイクルしているところは少ないです。

それから、紙容器・紙コップ類はやはり焼却でございますので、正直言いますと50いかないか、もっと低いかというような形だと思います。

ただ、ハードルを上げるためにですね、今でいう食品残渣、それから、紙容器・紙コップ類などについて、逆に今、焼却のものをリサイクルに回すとさせていただいたところで

ございます。

○小宮山委員長 残念ですよ。65%と聞いたら、高いと思いません。

○森総務局次長 そうですね。重量ベースでやりますので。

○小宮山委員長 だから、そこは重要です。

○崎田座長 そうですね。イベントではなくて、例えば、今、自治体の一般廃棄物だと、リサイクル率って21%とかですね、そのくらいのところが多くて、実はイベントではありますが65%というのはかなり高いハードルなのですね。

ですから、それをどうやって説明をするかというところも必要ですね。

○小宮山委員長 どこかに比較があって、日本で普通にやったらこれぐらいだとか、あるいはロンドンはどうぐらいだったとか、何かないと。

○森総務局次長 比較、そうですね。わかりました。

○小宮山委員長 65%が非常に高いというのがわかるようにしないとだめです。

○森総務局次長 わかりました。例えば、東京の多摩のほうが23区よりリサイクル率が高いのですけれども、それでも20%前後だと思います。

○小宮山委員長 だから、そういう数字があれば65%は高いと思います。

○森総務局次長 高いと思います。

○崎田座長 発信するときに、そういう配慮があると、それだけでも。ありがとうございます。

あと、そのときにおっしゃっていた、紙容器をリサイクルというお話がありましたが、今のプラスチックから紙へという大きな流れがあるので、今まで使わなかったものも紙皿、紙コップなどいろいろなものを紙にしようという動きが出てきているのですが、それをきちんとリサイクルできるという技術がやっぱりなかなか定着していなかったものを今回、使用した紙は全部リサイクルするというので取り組んでいただけると認識していますので、そういうことが次の社会につながっていったら本当に大きな意義があることだと思いますので、そこに意義があるのだということがわかるように発信するというのも、ぜひと思います。よろしく願いいたします。

それでは、その後、大気・水・緑・生物多様性等の分野もありますが、特にこの辺で御意見、何かあればまた、後ほど言っていただければと思います。

ちょっと進めていってよろしいですかね。それでは、後半の人権・労働、公正な事業慣行等とか、後半の部分で御意見などある方はどうぞ。人権・労働、公正な事業慣行等で今、

御質問、御意見、特にある方いらっしゃいますか。よろしいですかね。

その後、アクセシビリティとかもあります。すみません、このアクセシビリティのこの質問なんです、今かなり進んでいるのではないかなと思いますが、これに関してどのくらい進んでいるのか、ちょっとその状況など教えていただけますでしょうか。ちょうど今、24ページですね。

○杉本持続可能性計画課ディレクター では、私のほうから。

ただいま、ラストマイル、ラストマイルといいますか、最寄りの駅とか空港から会場までのように、いろんな自治体様とか、いろんなところと組みながらやるものは計画が立てられていまして、それにのっかって順調に準備が進んでいると思っております。

それから会場内についても計画が決まっている中で、実際にも建設がどんどん進んでいるので、これも順調に進んでいると思います。

課題なのは箱物、ハードものということよりも、これからいよいよ大会開催時にいかに、現場でいろんなことが、多様なニーズが生じたり、事象が生じたりするときに大会に関わるスタッフが適切に対応できるためのソフトといいますか、その心構えといいますか、実際にすぐ順応、対応していけるような実務を体に身につける訓練だとか、これがこれから始まっていきます。特に年明けから始まっていきます。ここが大事だと思っております。

○崎田座長 それは研修みたいな形でやっていく感じですか。

○杉本持続可能性計画課ディレクター 当然、知識として知るということもありますけれども、ここにもボランティアのところに書いてありましたかね。実際の実践訓練みたいなものも、それぞれやっていきます。

○崎田座長 ありがとうございます。

わかりました。ボランティアは後ろのほうに、もう少し後の参加・協働のところですかね。どうもありがとうございます。

参加・協働、情報発信、この辺で御質問のある方いらっしゃいますかね。

あと、私、ここで今一つ質問なんです、さっき29ページのところの御説明で、観客の方々も重要なステークホルダーであり、適切な行動を促していくことが課題で、きちんと大会の持続可能性を伝えと書いてありますけれども、どういうふうに観客に伝えていくのかというのは、結構大変なことだと思うんですが、この辺はどういうふうに具体的なことを考えておられるのかちょっと教えていただければと思いますが。

○大谷持続可能性企画課長 これもいろいろなチャンネルがありますので使っていきたい

と思っていますけども、例えば、まずその事前の段階でウェブサイトやアプリ等やさまざまな媒体がありますので、そういったところでどこまで伝えていけるかというのが一つございます。

あとは大会本番で、会場で、持続可能性の情報をどのように伝えていくかというところも課題として、例えばゴミの分別などはまさに会場で観客の方に実際に行動を起こしていただくというところですので、こういったところをこういかに会場でわかりやすくお伝えできるかというところを今まさに検討しているというところがございます。

○崎田座長 はい、わかりました。

それは検討中ということですかね。この報告書の段階ではかなり細かく書かれているという理解でいいんですか。

○大谷持続可能性企画課長 そうですね。実際にウェブサイト等は、まさに今、もう検討をしているところがございますので、そういったところは書けるかと思えます。

あとは、その現場でどのように発信するかというところは、調整状況を見ながら検討したいと思います。

○崎田座長 はい、わかりました。

○小宮山委員長 今の件、いいですか。

○崎田座長 はい。

○小宮山委員長 今のは非常に重要なポイントで、やはりその現場に来た人たちがどうやってここに書いてあるようなことを知ることができるのか。非常に高いリサイクルをやっていたということをどうやって観客は実感するのか。それから、選手はどう実感するのか。それから、メディアはどうやってそれを知ることなのか。あと何だろう、いわゆるステークホルダーです。要するに、発信というのは、我々が何かやったということではなくて、来た人たち、集まった人たちがどうやってそれを知ることかという立場で考えてほしいのです。

例えば、メダルプロジェクトはどうなったのですか。もらうのは選手なのだから、もらった人がこれは日本の市民による都市鉱山からできたメダルで、21世紀はそういう社会になるのだと言うことを知ってもらいたいというのが目的だったわけです。メダルプロジェクトと言って、みんなが投書を書いてくれました。日本のマスコミも。

それから一個一個、63の自治体から供出された木が、選手村は皆、仮設だから壊すわけだけれど、戻って何に使うかということが全部決まっているのだと聞きました。それをきちんと一本一本の木に、仮設だからこの木は元の自治体に帰るのだということを僕が書け

と言ったのです。そうしたらIOCが認めてくれるかどうかと言っていたのは知っていますが、それはどうなったのですか、結局。それが広報ということなのです。エンゲージメントというのは巻き込むという意味のはずです。

だから、具体的にやりました、報告書に書きました、というだけではだめなのです。今の質問にちゃんと答えてください。委員会で何度も言ったことです。

○荒田持続可能性部長 木材リレーですね。

○小宮山委員長 そうそう、木材リレー。

○荒田持続可能性部長 選手村の中の、ビレッジプラザの

○小宮山委員長 それから、できれば鉄鋼です、鉄鋼。

○荒田持続可能性部長 ビレッジプラザという、選手等がくつろぐスペースについて、63の自治体から借り受けて、大会が終わった後、それぞれの自治体にお戻しするというものです。

それで、自治体にお戻しした後、何に活用されるかというのは決まっているところもあれば、そうでないところもあると聞いております。

○小宮山委員長 みんな決まっていると聞いた気がしています。

○荒田持続可能性部長 それで、先生がおっしゃっている、実際に。

○小宮山委員長 木材リレープロジェクトとか言っていたじゃないですか。木材リレー。

○荒田持続可能性部長 そうです。木材。

○小宮山委員長 それで、木材リレーというのは、そういう意味だと私は聞いたけれど。

○荒田持続可能性部長 そうですね。大会後にも活用されることは確かです。

○小宮山委員長 だから、そういうふうなことをどうやって知るわけですか。

○荒田持続可能性部長 それを。

○小宮山委員長 大変いいことです。リサイクル社会の非常にいい事例だと私は思うのですが、それをどうやって参加者、ステークホルダーは知るのでしたか。

○荒田持続可能性部長 大会前、今の段階でも、それぞれの地域から木材が出発して、こちらに向かっているんですね。そのときも、しっかり地元の方がきちんと顔が出るように、顔が見えるような形で、広報をしたり。

○小宮山委員長 広報したりというのは、顔がどうやって見えるのですか。

○荒田持続可能性部長 プレスリリースをしたり。

○小宮山委員長 プレスは、みんな書いてくれたのですか。



○荒田持続可能性部長 書いていただいています。

○小宮山委員長 本当ですか。

○荒田持続可能性部長 はい。

○小宮山委員長 それはいいね。

それで、ステークホルダーというのは、ほかにもたくさんいるわけです。オリンピックに来た人たちが一番のステークホルダーですよ。

○荒田持続可能性部長 はい。

○小宮山委員長 今、申し上げたように、ビレッジプラザを選手が使うわけでしょう。その人たちがどうやって、それが日本のリサイクル社会の象徴だということを知るわけですか。

○荒田持続可能性部長 このビレッジプラザの中に、この今の木材リレー木が循環していますというものをきちんとこれを伝える場を設けます。まさにここが見える場所で、木に囲まれている状態の中で、これがどういうふうに使われて、寄せられてきて、これがどういうふうにするのかというものを目の当たりしながら伝わるように。

○小宮山委員長 わかりました。ビレッジプラザの中にそういう場を設けて、入った人にそれがわかるようになっているわけですね。

○荒田持続可能性部長 そうですね。

○小宮山委員長 はい、わかりました。

メダルは。

○荒田持続可能性部長 メダルはもちろん、これまでも広報してきたところですけども、またメダルが、デザインが決まったときにですね、これもこれまでの過程で、皆さんがパソコンですとか、スマートフォンですとかを出していただいて、寄付していただいて、溶かして、こういうふうに行っているんだよということをストーリー仕立てにして。

○小宮山委員長 それも非常にいいです。

金メダルをもらった選手はどうやってわかるのですか。

○荒田持続可能性部長 それはメダルを首にかけたときには、まだこのときにはわからないんですけども、最後にはそれをずっとお国に持って帰るためにケースに入れることとなりますので、このどこかに今、そういったことがきちんと。

○小宮山委員長 そうですね。わかりました。それも素晴らしい。

最後に、競技場では、スクラップをたくさん使う、電炉の鉄をたくさん使うということ

を決めました。それはどうやって選手はわかるのですか。

○荒田持続可能性部長 選手ですか。

○小宮山委員長 メディアや来た人もです。

○荒田持続可能性部長 再生素材は、電炉材に限らずですね、ほかにもたくさん使っておりますので、こういったものを含めてですね、すみません、これを今、大会中にどういうふうというのは考えていないところですが、必ずどれぐらい使われたということはきちんと伝わるようにしていきたいと思っております。

○崎田座長 ありがとうございます。

それで、今、一つ委員長から御質問がありましたけれどもこういうふうな持続可能性に関する仕組みをつくったいろいろな関係者はよくわかっている、それがどんなに大変だったかもわかっている。今日のように来てくださっている関係者とか、マスコミの方もよくわかってくさっている。でも、大会に来ているそのときの観客の人たちにも、そこがすぐに伝わるよううまい仕掛けをつくっていくことで、この持続可能な大会を私たちが、組織委員会の皆さんが、こういう準備をしたんだということが非常にしっかりと伝わっていく大事なところなんだということです。今いろいろと現実の仕組みをつくっていただいています、その考えている最中にですね、これをどういうふうに観客の方とか、そういう実際にやっているときにわかっていたくような仕掛けを入れてくのかということ、いちど、全体を見ていただければありがたいですね。それが大事な広報というか、発信の一つにもつながると御理解いただければありがたいと思います。よろしくをお願いします。

今の話題で何か御発言特にありますかね。よろしいですか。

永島さん何かありますか。

○永島総合政策課長 非常に身につまされる思いで今話を聞いておまして、日本はいろいろなことを環境分野でたくさんやっているんですけれども、それをアピールするのが下手であると。特に役所としてそれは十分に伝えきれていないというところがあります。国際的には、例えば石炭に非常に注目が集まっておりますが、それ以外にも資源管理の分野、生物多様性の分野、いろいろやっていることがあって、それをしっかり伝えるというか、小宮山先生からございましたけれど相手の方が理解することを目的にやっていたらいけないと常々考えております。これからオリンピックに向けて日本が、世界が盛り上がっていくわけですが、そのときに一緒になって環境分野にも注目が集まり、環境の思いが一人一人に伝わることを一緒になって進めていかなければいけないと改めて本日、

思いましたので、そういう方向でまた考えていければと思います。

○崎田座長 ありがとうございます。

まじめにお答えいただいて申し訳ないです。日本は化石賞をもらっちゃいましたが、この大会はちょっともらいたくないなという感じがしますので、幾らいろいろなことをやっても発信力というか、そういうことにつながらないと、なかなかやっていることも評価していただけない。もちろん、もっと取り組まないとという面はあると思いますけれども、そんな感じもします。ありがとうございます。

よろしいですかね。それでは少し、この内容を続けていきますので、次に持続可能性に配慮した調達の部分もありますけれども、相馬さんお願いします。

○相馬委員代理 こちら、農林水産物のその調達につきまして、本文のほうも、報告書も拝見したんですけれども、調達基準に沿った調達が進められていると書いてあるんですが、やはり調達コード自体に、持続可能性を担保できない問題があるという指摘が以前の議論でずっとあったと認識しております。

例えば、木材の調達コードに関しては、当初の基準に対しても大きな批判がありまして、IOCまでレターがたって、改定されたという経緯があったと思います。そのほかのパーム油であるとか、特にその水産物の調達コードの課題についてもWWFをはじめとして、委員の皆さんの方やあとは、ほかの国際関係NGOなどから指摘されてきたと思います。

ぜひ、報告書にはそのような課題とか指摘があったということ、それからそのような課題にどのように対応して乗り越えてきたのか。それから、これからそれを対応していくのかという点についても記載されてはいかがかと思います。

もう一点、ぜひその調達物とか調達実績を公開していただきたいと思います。公開することで、透明性が担保されると思いますし、この持続可能性調達コードをもって本当に持続可能な調達ができたのかどうか。改めて振りかえられると思います。

サステナビリティに関して、そのどのような課題があっただのように乗り越えてきたのかという部分こそが、レガシーになっていくと思いますので、ぜひその点、御検討いただければと思います。

○崎田座長 ありがとうございます。

この調達ですが、本当にいろいろなNGOの方から御意見いただいてきました。それで、こういう調達のときに持続可能性とか、人権とか、人権労働とか、そういうことをしっかり入れてこれだけのルールをつくるというのは、やはり日本にとっては大きな一歩だと思

うんですが、その内容に関してはNGOの方からいろいろな御提案もあるということを受け止めながら組織委員会もこれまで作業して下さったと思うんですが、今の御質問に関して、日比野さんのほうからお願いします。

○日比野持続可能性事業課長 はい、御意見ありがとうございます。

調達コード、あるいは調達基準については本当にさまざまな御意見いただきながら、逆にさまざまな御意見があるとわかっていたので、非常に丁寧なプロセスといえますか、いろいろな方からのヒアリングですとか、パブリックコメントなどもやってですね、多様な意見をお聞きしながら丁寧に検討したというものでございますし、それを使ってこの調達を進めていこうというところでございます。

いろいろな御意見があるというところについては、報告書の中でも触れていきたいと思っておりますし、また、それに対する組織委員会側の考え方などについても、調達基準だけに限らず、そういったことは触れていきたいと思っております。また、実績の部分についても、どういった取りまとめの仕方ができるかとか、また大会後の報告書も含めて、どういった示し方ができるのかというのは引き続き検討したいと思っております。

○崎田座長 ありがとうございます。

調達に関してはいろいろとできたこと、いろいろなことをいろいろな意味で現実、いろいろなどんなやり取りがあったのかみたいなことがきちんと記録に残っていくことも大事ですので、ある程度うまく報告書の中にも盛り込みながらやっていただければと思います。ありがとうございます。

よろしいですか相馬さん。はい、どうもありがとうございます。

それでは進めていきたいと思っておりますが、丸田さんこの段階でよろしいですか。はい、わかりました。ありがとうございます。

それでは、少し見ていただいて、今は調達のところで来ましたが、あと次のページは会場整備があります。会場整備のところで、御意見などあれば。どんどんできてきました。

○小宮山委員長 例えば、オリンピックスタジアムの風況、風のデータは膨大なビッグデータです。それをビッグデータとして、入り口とか構造で、自然の風で快適になるようにして、そういった意味で省エネみたいなことが非常に私はインパクトがあると思うのです。要するに、自然と建築物の融合ということです。これは隈研吾さんの基本思想です。そういうふうにした方がいいと思います。そういうふうには書いてあるのですか。ポイ

ントだと思います。要するに自然と人間、人工物、こういったものの融合をよしとしている国として、日本は一つの典型です。その代表例だと思うのです。

だから、ただ省エネ、次世代型BEMSというだけでなく、自然や快適性みたいなことですよ。それを入れた方がいいのではないかと思います。

○崎田座長 御提案ありがとうございます。

そのほうがこういう委員会で、こういうふうにやってくださったんだという場合にはいいですけども、多く社会の方に伝えるときにやはりそういう気持ちが重要ですね。夏季の季節風を取り込みって書いてありますが。

○小宮山委員長 そこに書いてある。

だから、これを抽象化して、さっき言ったように自然と人工物と人間との融和をよしとする日本の文化とか、何かそういった表現を入れられたほうがいいと思います。

○崎田座長 ありがとうございます。

そういう多くの方の気持ちの中にすんと、納得感があるような伝え方をさせていただければと思います。

そういうふうにと考えると、ほかの建物も今回かなり木材を、材木をしっかり活用するなど、かなりそういう意識した工夫があるように思いますので、そういうことをトータルで発信をしていくというのが非常にプラスになるのではという今の先生のお話も伺いながら考えたいと思います。よろしくをお願いします。

それでは大体、最後のほうまで来ましたが、今日は、東京都からもお越しいただいていますけれども、この会場などの話だけでなく、暑さ対策のことなども。

○吉迫暑さ対策担当課長 私、今日、若林の代理で来ておりますけど、暑さ対策のほうを今、担当しております、先ほどお話があったと思いますが、組織委員会と連携いたしまして、今年の夏において五つのイベントでハード、ソフトの両面から試行、検証等を行ってまいりました。今、これらは検証等を行いまして、休憩所の設置、飲料の配布などの対策につきまして、現在の都議会のほうで補正予算のほうを今、出しております、今まさに議会のほうで審議中でございます。可決された折にはですね、そういったものを活用しまして、大会の暑さ対策について、特に組織委員会さんのほうでは会場の中もやっておりますけれども、都のほうでラストマイル等を中心にですね、対策のほうを強化していきたいと思っておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

○崎田座長 ありがとうございます。

1年前のいろいろな取組をうまく生かしながら本番の準備をするということで、ありがとうございます。札幌には使えないかなという感じはありますが、ぜひうまく共有していただければと思います。

じゃあ、関口さん、よろしく願いいたします。

○関口運営推進担当部長 この12月からの持続可能性について、東京都オリパラ局で担当させていただきます関口と申します。どうぞよろしく願いいたします。

まず、先ほどアクセシブルについてお話がございましたけども、東京都でもいわゆるラストマイルの部分につきまして、車いすの利用をされる方が会場にたどり着きやすいようにアクセシブルルートを設定させていただいております、この度、輸送計画バージョン2を策定し、その中で位置づけさせていただいております。

全般のお話でございますけれども、すでに皆さんの議論は終わっているかもしれないですが、私個人的には、この2020大会のレガシーというのは、成熟社会の中でどういうものを残していくかということが重要で、まさに、持続可能性に関する取り組みをとりまとめた報告書はレガシーになるものだと思います。小宮山先生をはじめ、各委員の皆様からご意見がございましたように、これをいかに、大会後、個人や様々な主体の方々に行動してもらえるよう、どのように発信をしていくんだということがまさにレガシーの議論になっていくんだろうなと思っています。そういう意味で、広報の大切さというのがとても大事だと思いました。

私も行政の人間なので、永島総合政策課長がおっしゃったように、広報が行政は下手で、マスコミを通して、マスに対して、客観的な事実を広報するという機会としてしまうんですけども、今ご紹介のあったオリンピックスタジアムの広報の仕方というか、表現の仕方というのは、やはり行動を促す、また共感を呼ぶ、そのために必要なヒントがあるんじゃないかなと思いました。

東京都でも、この2020大会を契機に、いろいろな取組をさせていただいております。この報告書の中にも入れさせていただいておりますけども、環境についてはいろいろと既に記載されておりますけれども、例えば人権条例であるとか、働き方改革、スムーズビズという形で、環境だけではなく、人々が生活しやすくなるような仕組みづくり、またバリアフリーの推進等についても取組を進めさせていただいております。

現在、2050年を目指して、新たな長期ビジョンも今検討しているところでございまして、そういう中にも含めていくのかなと思っています。

また、引き続き、どうぞよろしく申し上げます。

○崎田座長 どうもありがとうございます。

丸田さん、何か一言、はい、よろしくお願いいたします。

○丸田委員 ちょっとページ戻っていただいていたいいでしょうか。29ページなのですが、ちょっと真ん中の下あたりに「観客の方々も重要なステークホルダーであり、大会の持続可能性を伝え、適切な行動を促していくことが課題」とあります。

非常に重要なキーポイントでありまして、得てしてこの手のイベントというのは私たちやる側、あんたら見る側となってしまうがちなのですけれど、いや参加者も観客も持続可能性のプレイヤーなのですよと。非常に重要な課題なのですけれど、そこに「適切な行動を促していく」と書かれてあります。具体的にどういうことをお考えなのかというのがちょっと聞いてみたいなと思っています。

さらにその下に、わざわざ黄色でマーキングをして「会場におけるゴミの適切な分別」とあります。日本でいると、そのゴミの分別というのはある程度、習慣づけられているでしょうけど、観客の方というのは当然、世界中が来られるわけです。ゴミの分別とはなんぞやという方もいらっしゃるかもしれませんと。そういう形に促すというよりも、放っておいてもやりたくなるような、そういう意味では自らそういう行動をとるような促し方というのは、何か考えておるのかと。今、ちょっとお聞きしたいなと思っています。

ちょっと古い話なのですが、2005年の愛知万博へ行かれた方いらっしゃいますか。

○崎田座長 はい、行きました。

○丸田委員 あのときのゴミ箱を御覧になりましたか。

○崎田座長 ああ、ずらっとありました。

○丸田委員 よう、こんなものつくったなと思うようなごみ箱やったんですけど、あれを見ると放っておいても、これは分別しなきゃならないだろうと思うようになります。やってくださいよと言うのじゃなくて、放っておいてもやりたくなるような、そういう仕掛けづくりでしょうか。

○小宮山委員長 去年か、一昨年かノーベル経済学賞を受賞した、ナッジという、男のトイレで、ここにハエの絵を描いておくと、こぼれるのが少なくなるというようなことです。

○丸田委員 関西国際空港のトイレですね。そういうことをぜひ、お考えいただければと思っています。もし、何かありましたらどうぞ。

○崎田座長 ありがとうございます。

先ほど来、この部分が大事ということでもいろいろ意見交換していましたが、一つだけその会場のごみ分別なども重要なポイントという御質問がありましたので、山下さん、何か一言コメントいただけますか。

○山下持続可能性計画課長 今、いただいた御指摘のところは我々も課題とっていて、御説明したようにリサイクルの業者との契約を進めているところです。またゴミ箱につきましてもどういうふうに使っていくのか、そこで、とにかくわかりやすく、日本人だけでなく海外の方にもわかりやすくというのは今の検討の最中でございまして、今日いただいた御指摘を踏まえて検討したいと思っています。

○崎田座長 ありがとうございます。

ここが課題だというのは重々何か伝わっていると思いますので、ありがとうございます。

○小宮山委員長 考えるときに、そういうのが得意な若者と一緒に行ったらいいと思います。今のは非常に重要で自然とやりたくなることができたら本当にすばらしいレガシーです。

○崎田座長 ありがとうございます。

次の会合のときには何か、いろいろとまた伺えればと思います。ありがとうございます。徳弘さんいいですか。何か一言。いいですか。

皆さんありがとうございます。今日、どんどん意見を言っていたんですけども実はこの短時間に200ページ、300ページ分の御意見をというのはちょっと無理な話ですので、皆様のデータを御確認いただいて、もし追加の御意見などがあれば来週ぐらいまででよろしいですかね。

○荒田持続可能性部長 また、こちらから、それぞれの先生方にはメールで御連絡を差し上げたいと思っています。おおよそ来週ということ。

○崎田座長 わかりました。

来週の終わりまではちょっと無理かなって感じもあるみたいですので。

○荒田持続可能性部長 18日までに。大変短くて恐縮なのですが。

○崎田座長 来週の18日というと、もうあまり時間もありませんが、もし追加意見があればそれまでに御連絡いただければと思います。

皆さんからのお話はもう、まとめきれないのですが、時間が過ぎておりますので。脱炭素のところとか食品ロスの話、あと紙容器のリサイクルの話、あるいはそのリサイクルなどがいかに大事なチャレンジをしているのかということがわかるように、取り組んでほし



いということとか、持続可能性に関しての先ほど、小宮山委員長から全体的に、その持続可能性に関して観客の方にしっかりとわかっていただくような発信の仕方など、そこが現実にはすごく大事なのだということでお話しいただきました。ありがとうございます。

それに関して、環境省や東京都の皆さんからも、そういうことを考えながらこれからやっていきたいというお話もありました。

皆さんで、その辺は考えて一緒に取り組んでいければと思いますので、またアイデアとかですね、そういうことがあれば、いろいろ共有していければと思います。よろしいですか。

では一言、手島さんのほうで締めていただいて終わりにしたいと思います。

○手島総務局長 本日も貴重な御意見をたくさんいただきましたありがとうございます。

今日の議論もそうですけども小宮山先生、崎田先生からもお話がございましたが、あと環境省の永島さんや関口さんからもありましたが、やっぱり同じことを伝えるにしてもですね、やっぱり心に響く言葉を選び出すとか、そういうものがすごく大事だということは常々、小宮山先生から御指導いただいておりますけども、今日も実感をした次第です。

我々、計画書も含めてですけれども、結構先進的な取組ですけど、やっているんですけど、やっぱりこれが先ほど、先生に御指摘をいただいたように、他と比較してどれだけ優れたといえますか、大変なことをやってるのかという、そういうアピールといえますか、PRもやっぱりまだ十分じゃないところもありますし、また世の中を変えたいといえますか、これを機に2020大会を機に、社会変革というのもやっぱり一つの目標でもございますが、そういうことを都民、国民の皆様にやっていただくためにも、そこをどう伝えていくかというところがやっぱり肝になってくるんですが、そのところはやっぱり欠けているといえますか、まだ至っていないというところは、先生の御指摘のとおりだと思っております。

せっかく、いいことといえますか、取り組んでいることをステークホルダーという言い方もしますけれども、やっぱり都民、国民の皆さんにわかっていただいて、世界中の方にわかっていただいて一歩踏み出す、そのためのベースになるためには、我々がいかにものを伝えていくかというところが大事だと思っておりますので、今日、御議論いただきましたこと、報告書に書けることはどんどん書いてきたいとは思っておりますし、それをいかに伝えていくかというところも、その部分にも注力をしまして、いい報告書をつくっていききたいと思っております。よろしく願いいたします。今日は本当にありがとうございました。

○崎田座長 ありがとうございます。

本当に今、一歩も二歩もいろんなチャレンジしていただいていると思っておりますので、これをしっかりと現実感があるように取り組んでいただき、発信するという、そこをつなげていただければと思います。

皆様、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。